

「ついで見回り・通報」基本合意書調印・初捕獲！

〔南信森林管理署〕

8月8日、「ついで見回り・通報」の基本合意書の調印が、上伊那郡猟友会、宮下建設(株)(伊那市)、当署の三者により行われました。

この基本合意は、国有林内で効率的にニホンジカを捕獲するため、工事現場までの林道等沿線及び工事現場周辺に猟友会が仕掛けた「くくりワナ」にニホンジカが掛かっていた場合、現場作業地に通勤する宮下建設社員が猟友会へ連絡し、速やかな捕獲につなげるものです。

「ついで見回り・通報」は、近年、猟友会員の高齢化、減少に伴いワナの見回りに負担が大きいことから、その対策として、本年度から中部森林管理局管内で取り組んでいるもので、今回、局管内で初めての調印となりました。



中部森林管理局管内で初めての調印終了後

調印を受け、8月30日に上伊那猟友会の各支部長12名で安全確認・現地確認を行った後、工事現場周辺、林道等の沿線の鹿道に当署から貸出した「くくりワナ」を設置しました。経験豊富な支部長さん達だけあって鹿道の見極め、設置場所の選定、設置まで手際よく作業を進め、33基を設置しました。



シカワナを設置する猟友会員

翌8月31日の午前8時過ぎに宮下建設の現場代理人から「ニホンジカがワナに掛かっている」と猟友会に通報が入り、三頭の雌ジカが捕獲されました。

竹入上伊那郡猟友会長は「早々に連絡を受けて捕獲できた。猟友会員も高齢化のため、見回る負担が軽減され空振りも無くなるので、森林管理署、宮下建設に大変感謝している。この地域のニホンジカの生息密度は高いと感じている。更にワナの設置数を増やして捕獲を促進したい。また、今回の取組を他の地域にも拡大させて国有林内での

ニホンジカの捕獲に協力していきたい」と話されました。

その後も捕獲が進み、9月20日現在で30頭を超えており、今後も順調に増え、成果が上がることを期待しています。

当署では、今回の成果を基に諏訪地域でも基本合意に向けて取り組んでいます。